

基調報告

ワンポイント

冷戦が終わり、核保有国の間からも「核廃絶」の声が聞こえ

での日程で連日、討論が続いている。核抑止に頼る大国の姿勢は

じつわっている。どういった

ーン(前)キヌスタン五子口

ワンポイント

罪分子であれ、重大な挑戦といえる。米国とロシアの二国間関係は、イランへの原子炉売却問題のように意見が異なることはあっても、米ソ時代の敵対的關係から成熟し、実務的で前向きな関係に変わった。



ラルフ・アール  
米軍備管理軍縮庁次官

ニューヨークでのNPT再検討・延長会議は、米国とロシアの協力がかぎになつて無期限延長という成功をもたらした。核兵器のない世界の実現という条約の究極的な目的に向けて、すべての加盟国が一体となつて働くよう希望する。拡散の脅威は、国家であれ、犯

米口は成熟し前向きに

器削減について、米口はずでに実行している。他の三国も今後これ以上核を増やさないと誓約するべきだ。核保有国内で、二国間、多国間の努力を同時に進めていくという統合的アプローチを提案したい。



グレゴリー  
V・ベルデニコフ  
ロシア軍縮大使

米口二国間の努力で大幅な核兵器削減が達成されてきた。だが、あらゆることが二国間で解決できる時代は終わった。化学兵器の禁止や今後のCPTBT交渉など多国間で努力しなければ、解決できなくなった。とりわけ五つの核保有国間の話し合いが必要だ。核兵

2国間解決の時代終了

る。中国は、常に核実験を自制している。CPTBTが発効すれば、核実験をやめる。核不拡散の問題では、NPTの延長は歓迎するが、核兵器の永久保有を認めるものではないと考える。



銭 嘉東  
中国国際問題  
研究センター副所長

二十一世紀が近づき、軍備管理と軍縮の重要な時期にある。中国は、完全な核廃絶が究極目的と考えているが、それには、生物兵器や化学兵器と同じような条約が必要だ。特に、核保有国が非核国に先制使用しないことを求める。CPTBT交渉にも積極的に参加す

核廃絶には新条約必要

示し、加盟国間に信頼や責任感が生まれた。これは世界的にも重要な出来事だ。最終的には完ぺきな核廃絶が目標だ。NPTの精神が保障されるなら、核保有国同士の多国間交渉に参加する用意はある。



フランソワ・バリエ・  
デロンシャン仏外務省  
軍縮安全保障不拡散局次長

フランスはこれまで、既存の核は、抑止に必要なだけの規模に縮小すべきだと主張してきた。冷戦の終結で、軍縮全般で大きな前進があった。フランスも、改めて核拡散の危険度の査定を行い、かなりの規模の軍縮を達成した。NPTの無期限延長は、将来の展望を

多国間交渉に参加用意

ない。カットオフ条約はすべての国が加入しなければ意味がなく、保有国や疑惑国にも受け入れられる限定的な内容にした方がいい。不満な人もいるだろうが、それが政治的現実を即した条約実現への近道だ。



ジョン・カールソン  
オーストラリア  
安全保障措置局長

カットオフ条約は、軍縮論議の中で非常に高い優先順位を占めているが、現実にはさまざまな問題が予想される。最大の問題が、過去に製造された核物質のストックだ。これが管理の対象になった場合、核保有国やパキスタンなどの疑惑国は条約に加盟するとは思え

カットオフ条約推進を

た  
会  
禁  
き  
け  
核  
つ  
が